

フクビ トータル防蟻システム 「ノンケミアリダン工法」 標準仕様書



ノンケミアリダンクリスタル



ノンケミ専用アングル



ノンケミアリダンシート

フクビ「ノンケミアリダン工法」 標準仕様書

「ノンケミアリダン工法 シロアリ保証制度」の適用を受ける際に、遵守して頂く施工要領等の内容を示すものですので、必ず本標準仕様書の記載内容をご理解の上、安全で確実な設計、施工を行ってください。

また、ここに記載のない内容につきましては、建築基準法、住宅の品質確保の促進等に関する法律ならびに住宅金融支援機構仕様書に従って施工されますようお願いいたします。

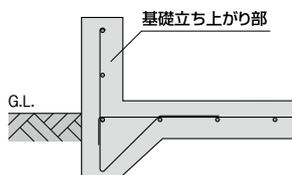
目 次

■防蟻処理必要部位例／玄関部打設方法別フローチャート	P.1
■ノンケミアリダン工法 部材一覧／■必要工具・材料類／ノンケミアリダン工法に関する注意事項	P.2
■基本施工要領	
①地盤面への防蟻施工	P.3・4
②配管周りへの防蟻施工	P.5・6
③水抜き孔部への防蟻施工／固化剤混合ノンケミアリダンクリスタルについて	P.7
■施工要領	
A. 基礎底盤・立上りを「一体でコンクリート打設」する場合	P.8
B. 基礎底盤・立上りを「分離してコンクリート打設」する場合	
B-1. 玄関内土間に盛土・砕石を入れずにコンクリート打設する場合	P.9
B-2. 玄関内土間に盛土・砕石を入れずにコンクリート打設する場合	P.10
B-3. 玄関内土間に盛土・砕石を入れてコンクリート打設する場合	
●B-3-1. ノンケミアリダンシートを併用してコンクリート打設する場合	P.11
●B-3-2. ノンケミアリダンシートを併用して、玄関ポーチまで一体でコンクリート打設する場合	P.12
■その他の施工要領	
①勝手口がある場合	P.13
②犬走りがある場合	P.14
③基礎内側断熱を行う場合	P.15
■10年目メンテナンス施工(有償)	P.16・17
■ノンケミアリダン工法 シロアリ保証制度	裏表紙

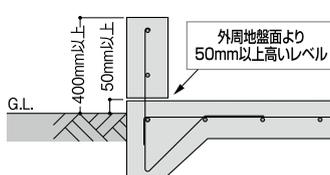
⚠注意 ●「ノンケミアリダン工法 シロアリ保証制度」について詳しくは、フクビにお問い合わせください。

⚠注意 「ノンケミアリダン工法」をご利用の場合は、住宅金融支援機構の仕様に準拠するベタ基礎に限ります。

A.ベタ基礎
(基礎底盤立上りを一体打設)



B.ベタ基礎
(基礎底盤立上りを分離して打設)

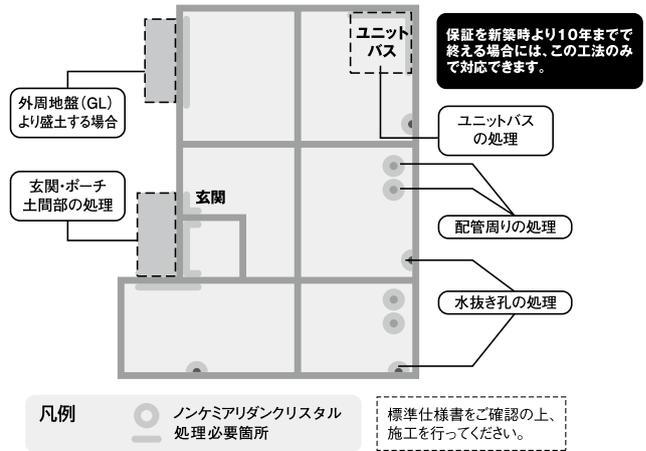
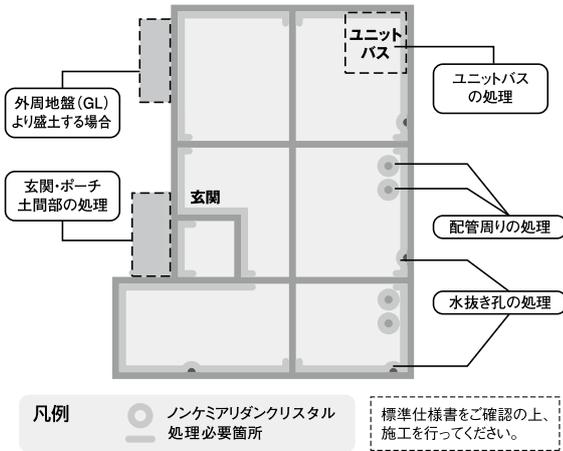


防蟻処理必要部位例

新築時一括施工により10年後のノンケミアリダン追加施工は必要ありません

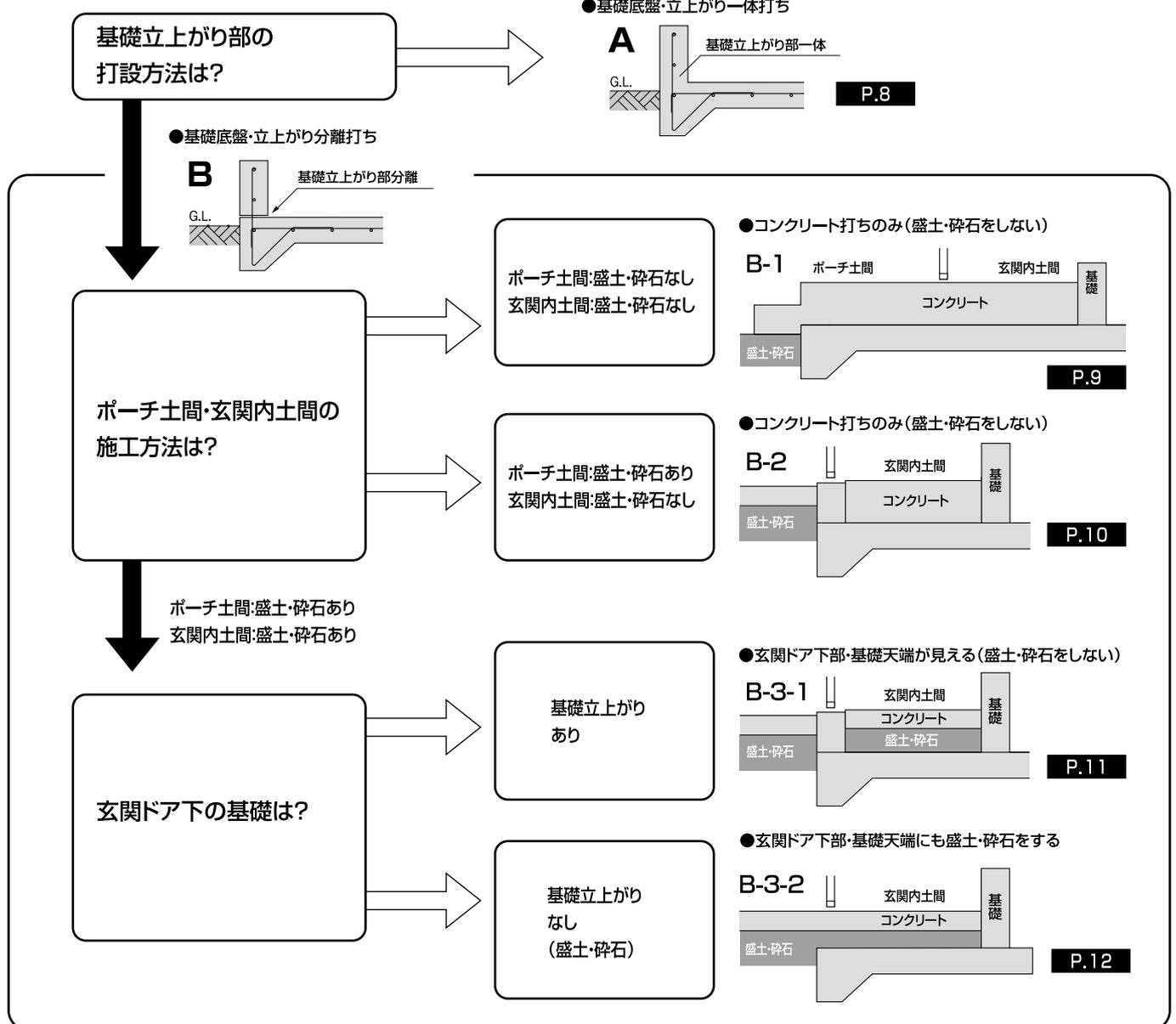
新築時のイニシャルをおさえるための工法です。

※保証を10年のみで終える場合この方法で対応できますが、保証延長するには、以下の(10年目)追加工事が必要です。

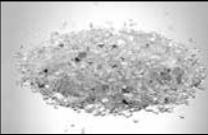
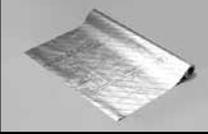


玄関部打設方法別フローチャート

玄関廻りの納まりによって施工仕様が違います。



ノンケミアリダン工法 部材一覧

部材名	形態	材質〈用途〉	容量
ノンケミアリダンクリスタル (防蟻粒材)		粒状ガラス 〈基礎際、配管周り、水抜き孔への処理〉	20kg
ノンケミ専用固化剤 (専用固化剤)		特殊樹脂エマルジョン 〈ノンケミアリダンクリスタルの専用固化剤〉 ※原液のまま使用	2kg
ノンケミ専用アングル (専用アングル材)		PVC(塩ビ) 〈ノンケミアリダンクリスタル施工用の専用アングル材〉	30×30×1,820mm (厚さ1mm) 30本/ケース
ノンケミアリダンシート (防蟻・防湿シート)		アルミ/特殊樹脂積層 〈土壌面の防蟻・防湿シート〉	1,000mm巾 ×20m巻
ノンケミアリダンテープ (防蟻・防湿テープ)		アルミ/特殊樹脂積層 〈ノンケミアリダンシートジョイント用テープ〉	80mm巾 ×20m巻

■必要工具・材料類

- 作業衣、マスク、作業用手袋、保護メガネ
- ほうき、チリトリ(施工部の掃除)
- 溝掘り工具(ノンケミアリダンクリスタル施工用)
- 金づち、ペンチ(型枠固定金具の取り除き)
- コンクリート釘 L30mm程度、径3mm程度(ノンケミ専用アングルの固定用)
- コンクリートドリル ドリル径 2.5mm(ノンケミ専用アングルの固定用)
- 小型ショベル ※プラスチック製、深底型(ノンケミアリダンクリスタル施工用)
- 噴霧器(ノンケミ専用固化剤の吹き付け用)
- トレイ(ノンケミアリダンクリスタルとノンケミ専用固化剤の混合用)
- 発泡材、布切れ(ノンケミアリダンクリスタル隙間への施工時に使用)
- はさみ、カッター(ノンケミアリダンシート/テープのカット用)
- 砂(ノンケミアリダンシート敷設面の目潰し砂)
- ゴミ袋(端材、ノンケミアリダンテープのはくり紙など)

⚠注意 ノンケミアリダン工法に関する注意事項

【取り扱い上の注意】

- 用法・用量
・定められた用法、用量を厳守してください。
・間違った使い方です生じた事故については、責任を負うことはできません。
- ・本品はシロアリ防止を目的としたものです。他目的、箇所で使用しないでください。
- その他
・空袋は他目的に利用したり野外投棄せず、産業廃棄物として専門の産業廃棄物処理業者に委託して処理してください。

【保存方法の注意】

- 本品の保管は、小児の手の届かない場所(鍵のかかる場所)に置いて管理してください。
- ※製品データシート(MSDS)を十分ご確認ください。

【施工時の注意】

- 本品の性質、使用方法、注意事項を熟知し、施主や関係者に工事内容をよくご理解いただいた後、作業を開始してください。
- 体調の悪い方、睡眠不足、二日酔い、高熱や病気の人は作業に従事しないでください。
- 作業の際は作業衣、マスク、作業用手袋、保護メガネなどを着用して、本品が直接皮膚に触れたり、吸い込んだりしないようにしてください。
- 作業後は身体への付着分を取り除き石鹼水でよく洗い、うがいをしてください。
- 取扱い中に、万一身体に異常を感じた時や誤って飲み込んだ時は、作業を中止し、直ちに医師の診断を受けてください。

【使用方法の注意】

- ノンケミアリダンクリスタル** **ノンケミ専用固化剤**
- ノンケミアリダンクリスタルは、原粒のままご使用ください。
 - 施工面のゴミ、ホコリを取り除いてください。
 - 施工部位(シロアリ侵入部位:基礎際、配管周り、水抜き孔など)にノンケミアリダンクリスタルを施工してください。基本施工量は、コンクリート面は高さ30mm以上、土壌面は深さ50mm以上必要です。
 - ノンケミ専用固化剤(原液のまま)を50g/m吹付けて、表面を固化させてください。

ノンケミアリダンシート **ノンケミアリダンテープ**

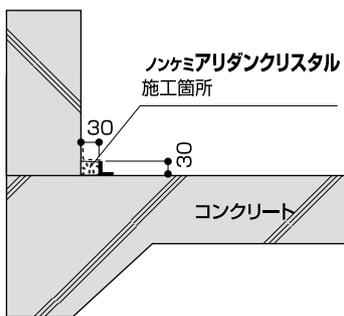
- 乱暴に扱ったり、重量物を落としたりして損傷させないようにしてください。
- 破れた場合は必ず専用のノンケミアリダンテープにて補修してください。

■基本施工要領

①地盤面への防蟻施工

1 コンクリート面の基礎際などに施工する場合

■ノンケミ専用アングルを使用する場合



- 基礎際のゴミ、ホコリを取り除きます。
- ノンケミ専用アングルを基礎際から30mmの位置に打ち付けます。
- 基礎立ち上がりとノンケミ専用アングルでできた溝にノンケミアリダンクリスタルを30mmの高さに盛っていきます。※ノンケミ専用アングルの高さは30mmになっています。
- ノンケミアリダンクリスタルの崩れ防止のために、ノンケミ専用固化剤を表面に吹き付けます。吹き付け量は20g以上/mとします。

使用量

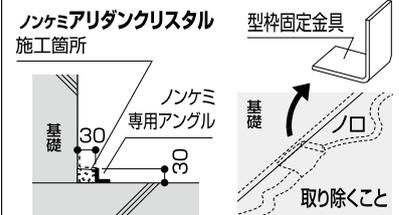
- ・ノンケミアリダンクリスタル:1.3kg/m
- ・ノンケミ専用固化剤:20g/m
- ・ノンケミ専用アングル

※推奨

- 規定量を確保しやすい
- スッキリとした納まり
- 崩れ防止

型枠金具取り外し

型枠の固定金具およびコンクリートノロ部はシロアリの侵入口となるため、施工前に取り除いてください。



アングル設置



ドリル穴空け



釘打ち

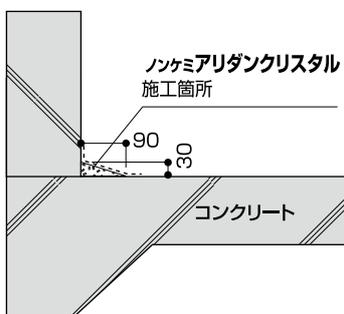


ノンケミアリダンクリスタルの施工



専用固化剤の吹き付け

■ノンケミ専用アングルを使用しない場合



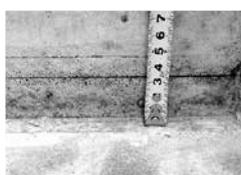
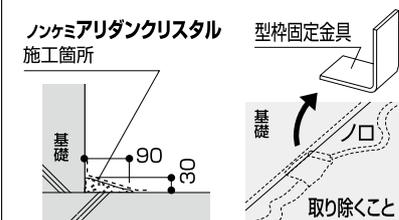
- 基礎際のゴミ、ホコリを取り除きます。
- ノンケミアリダンクリスタルを基礎際に盛っていきます。高さ30mm以上、巾30mm以上を確保してください。ノンケミアリダンクリスタルは粒状でサラサラしているため、高さ30mm堆積しようとする、巾は90mm前後になります。
- ノンケミアリダンクリスタルの崩れ防止のために、ノンケミ専用固化剤を表面に吹き付けます。吹き付け量は50g以上/mとし、基礎立ち上がりから基礎底盤(コンクリート水平面)まで全面に吹き付けます。

使用量(最低必要量)

- ・ノンケミアリダンクリスタル:1.9kg/m
- ・ノンケミ専用固化剤:50g/m

型枠金具取り外し

型枠の固定金具およびコンクリートノロ部はシロアリの侵入口となるため、施工前に取り除いてください。



墨出し(高さ30mm)



ノンケミアリダンクリスタルの施工



専用固化剤の吹き付け

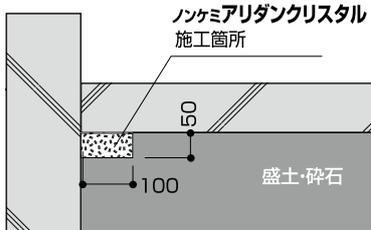
■基本施工要領

①地盤面への防蟻施工

2 玄関ポーチや、建物外周犬走りなどに施工する場合 ※土壌面の基礎際など(土間コンクリート打設仕様)

- 深さ50mm以上、巾100mm以上の溝を形成し、溝内にノンケミアリダンクリスタルを施工します。
- ノンケミ専用固化剤を、ノンケミアリダンクリスタル表面に吹き付けます。吹き付け量は50g以上/mとして、基礎立上がりから土壌面まで全面に吹き付けます。

使用量(最低必要量)
 ・ノンケミアリダンクリスタル:7kg/m
 ・ノンケミ専用固化剤:50g/m



基礎際の内土間盛土の掘り込み

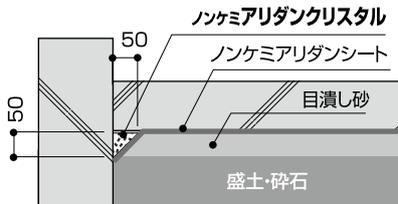


ノンケミアリダンクリスタルの施工



専用固化剤の吹き付け

3 玄関内土間や、建物床下などに施工する場合 ※土壌面の全面(土間コンクリート打設仕様)



- 基礎際に深さ50mm以上、巾50mm以上の三角溝を形成します。
 ※掘り起こした盛土、碎石は基礎外に出してください。
- 土壌表面に目潰し砂を施し、全面にノンケミアリダンシートを敷設します。基礎際の溝に入れ込み、基礎に突き付けます。
 ※ノンケミアリダンシートは破れやすいため、敷設面に目潰し砂を敷き詰めてください。
- 基礎際溝内に、ノンケミアリダンクリスタルを施工します。
- ノンケミ専用固化剤をノンケミアリダンクリスタル表面に吹き付けます。吹き付け量は、50g以上/mとし、基礎立上がりからノンケミアリダンシートにかけて全面に吹き付けます。

使用量(最低必要量) ・ノンケミアリダンクリスタル:1.8kg/m ・ノンケミ専用固化剤:50g/m ・ノンケミアリダンシート(テープ):敷設m²数



基礎際の内土間盛土の掘り込み



盛土への目潰し砂の敷き詰め



ノンケミアリダンシート敷設



ノンケミアリダンクリスタルの施工



専用固化剤の吹き付け

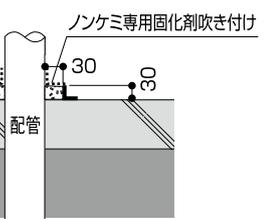
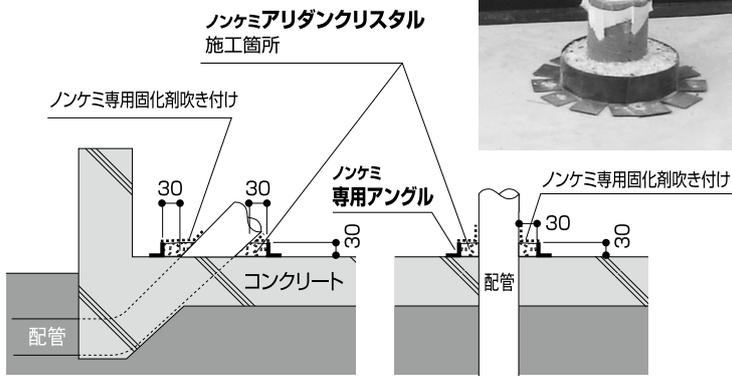
■基本施工要領

②配管周りへの防蟻施工

1 縦・斜め配管の場合

■ノンケミ専用アングルを使用する場合

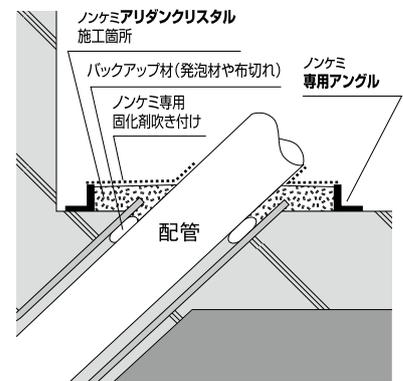
- ①配管周りのゴミ、ホコリを取り除き、ノンケミ専用アングルを設置します。ノンケミ専用アングルは接地面側を適当数カットし曲げて端部を重ね、配管周りに円状に設置します。配管外側からアングルまで30mm以上確保してください。釘は5箇所以上均等に打ってください。
- ②その後、ノンケミアリダンクリスタルを30mmの高さに盛っていき、ノンケミ専用固化剤を20g以上/m吹き付けます。



- ※推奨
- 規定量を確保しやすい
 - スッキリとした納まり
 - 崩れ防止

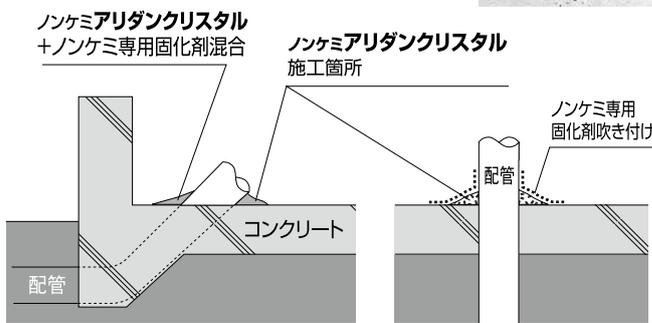
二重配管の場合

- 斜め配管で、二重配管としている場合は、配管同士のすき間にバックアップ材（発泡材や布切れ）を詰め、ノンケミアリダンクリスタルを盛って、ノンケミ専用固化剤を20g以上/m吹き付けます。



■ノンケミ専用アングルを使用しない場合

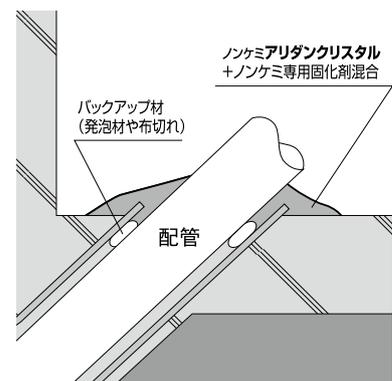
- ①配管周りのゴミ、ホコリを取り除き、ノンケミアリダンクリスタルを配管周りに盛っていきます。このとき、高さ30mm以上、巾30mm以上を確保してください。ノンケミアリダンクリスタルは粒状でサラサラしているため、高さ30mm盛るようにとすると、巾は90mm前後になります。



- ②ノンケミアリダンクリスタルの崩れ防止のために、ノンケミ専用固化剤を表面に吹き付けます。吹き付け量は50g以上/mとし、配管立上がりから、基礎底盤（コンクリート水平面）まで全体に吹き付けます。

二重配管の場合

- 斜め配管で、二重配管としている場合は、配管同士のすき間にバックアップ材（発泡材や布切れ）を詰め、その上にあらかじめノンケミ専用固化剤を混合したノンケミアリダンクリスタルを盛り、突き固めます。



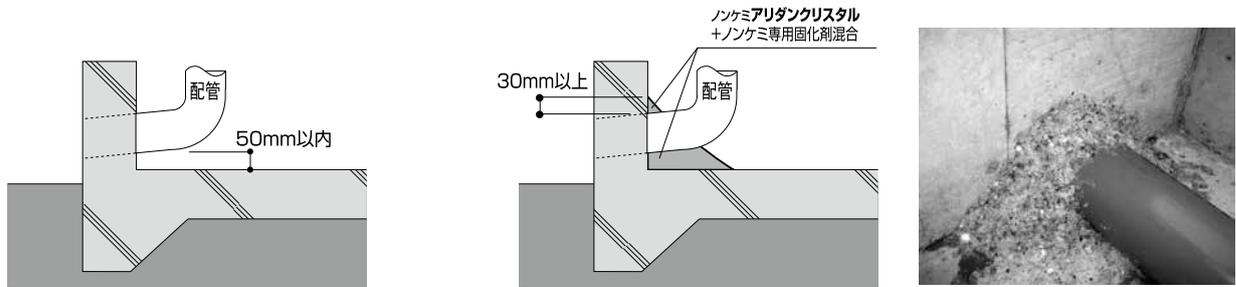
基本施工要領

② 配管周りへの防蟻施工

2 横配管の場合

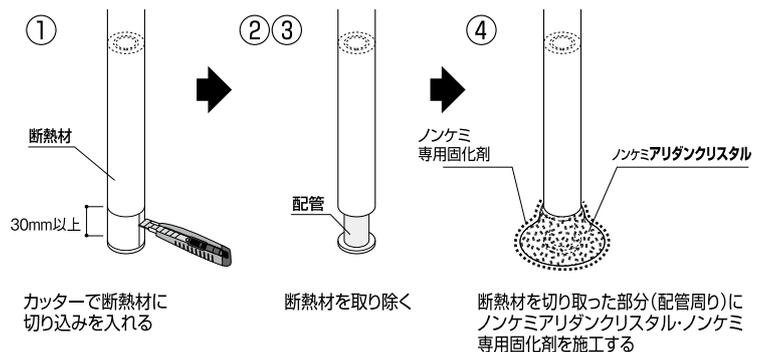
●横配管の下端が基礎底盤(コンクリート水平面)から50mm以内の横配管に施工します。

- ①配管周り、基礎際のゴミ、ホコリを取り除きます。
- ②あらかじめ、ノンケミ専用固化剤とノンケミアリダンクリスタルを混合し、横配管周りに盛っていき、突き固めます。配管周りに30mm以上の堆積が必要です。



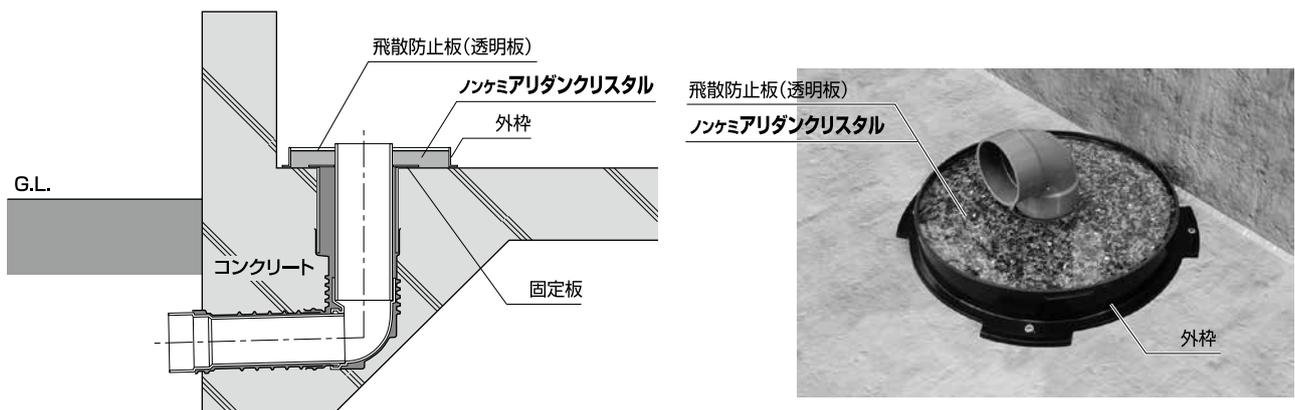
3 断熱配管の処理(断熱材の巻かれた配管)

- ①配管に巻かれている断熱材にカッター等で高さ30mm以上の切り込みを入れます。
- ②断熱材を切り取ります。
- ③配管周りのゴミ、ホコリを取り除きます。
- ④断熱材を切り取った部分(配管周り)にノンケミアリダンクリスタルを盛り、表面にノンケミ専用固化剤を施工します。



4 KC防蟻貫通パックを使用する場合

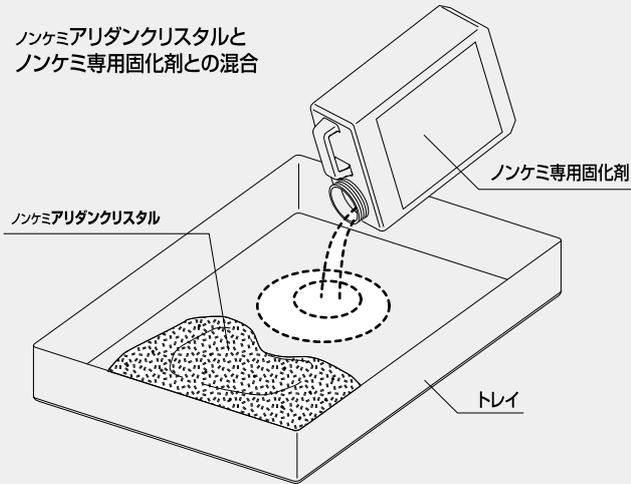
- ※配管部分にクボタシーアイ(株)の「KC防蟻貫通パック」が使用されている場合もノンケミアリダン工法の対象となります。
- ※「KC防蟻貫通パック」には、専用の小分けのノンケミアリダンクリスタルが付いており、配管業者が施工することになります。
- ※「KC防蟻貫通パック」のノンケミアリダンクリスタルが確実に施工されていることを確認し、必要に応じて補修を行なってください。
- ※「KC防蟻貫通パック」のノンケミアリダンクリスタルには、飛散防止板があるため、ノンケミ専用固化剤を施工しません。



■基本施工要領

固化剤混合ノンケミアリダンクリスタルについて

ノンケミアリダンクリスタルと
ノンケミ専用固化剤との混合



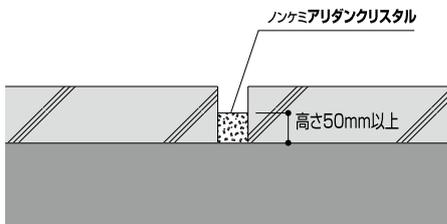
●高く盛る施工や孔部への施工の場合は、ノンケミアリダンクリスタルが崩れやすく、多量に必要となるため、あらかじめ専用固化剤を混合したノンケミアリダンクリスタルを作っておきます。

- ①トレイを用意し、ノンケミアリダンクリスタルとノンケミ専用固化剤を入れます。
- ②ノンケミアリダンクリスタル全体にノンケミ専用固化剤が行き渡るように十分混合します。

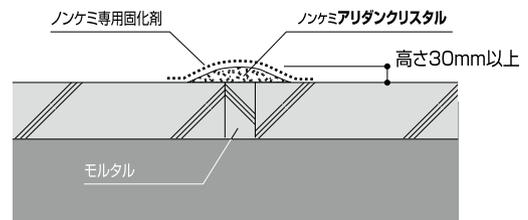
③水抜き孔部への防蟻施工

1 縦孔の場合

●水抜き孔の中全体にノンケミアリダンクリスタルを詰めます。
(高さ50mm以上)



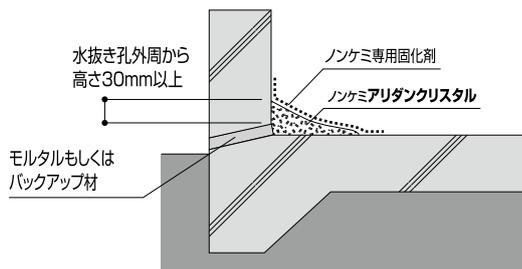
●水抜き孔にモルタル詰めしてある場合は、その上にノンケミアリダンクリスタルを盛り(高さ30mm以上)、全体にノンケミ専用固化剤を吹き付け、固めます。



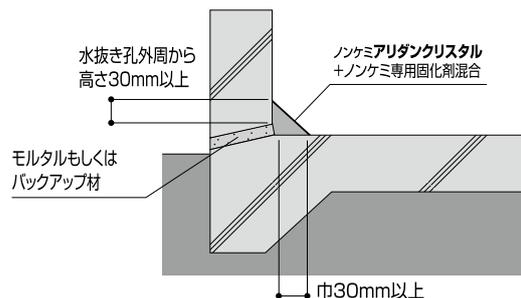
2 横孔(斜め孔の場合)

次のどちらかで施工してください。

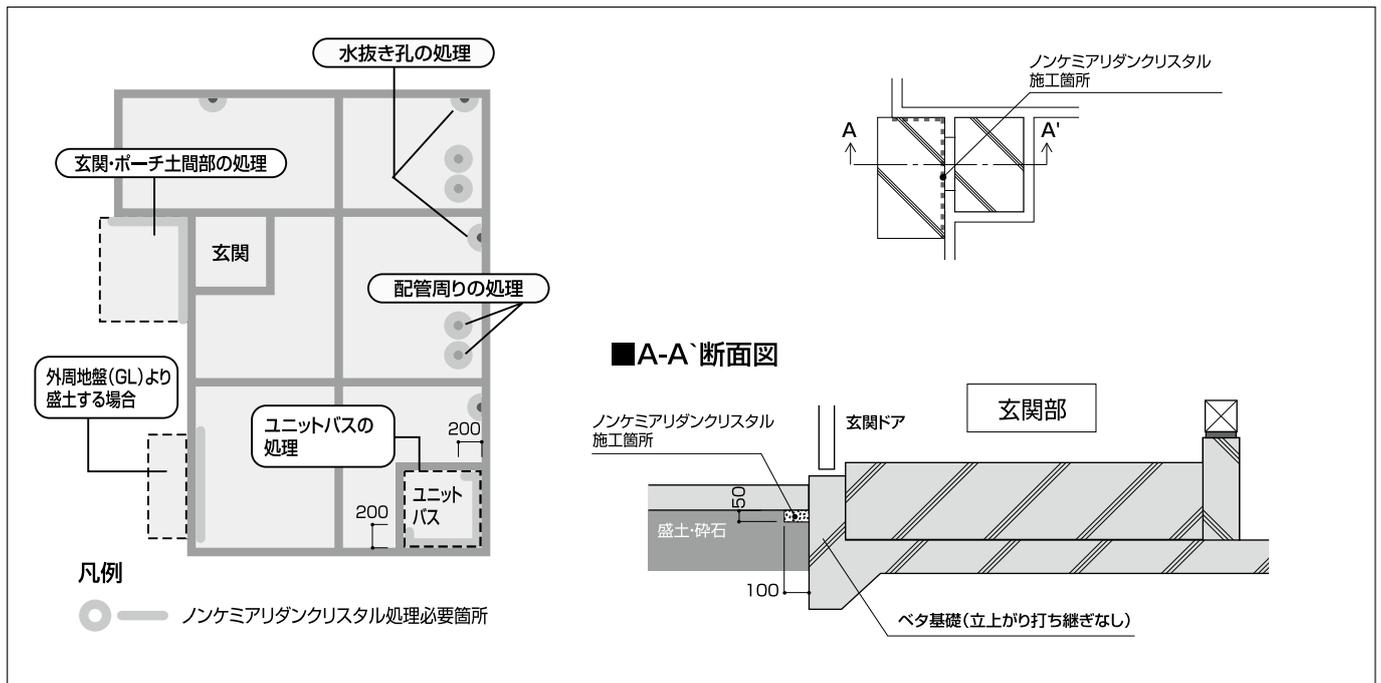
①水抜き孔にモルタル詰め、もしくは、バックアップ材(発泡材や布切れ)を詰めます。次に、ノンケミアリダンクリスタルを盛り(水抜き孔外周から高さ30mm以上)、全体にノンケミ専用固化剤を吹き付け固めます。



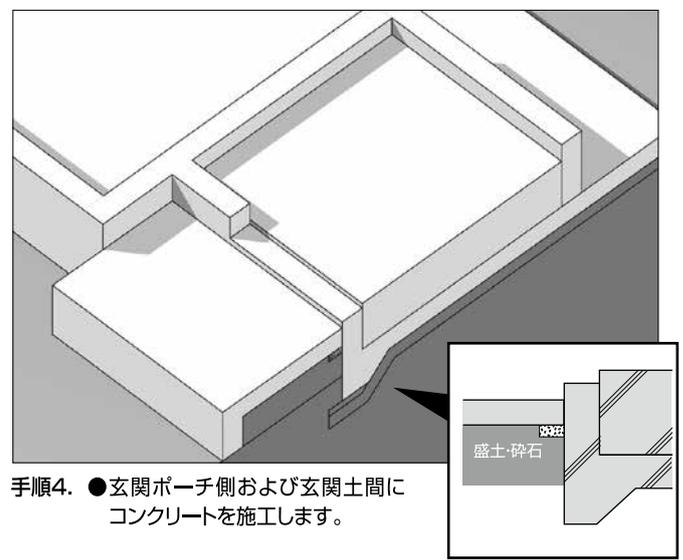
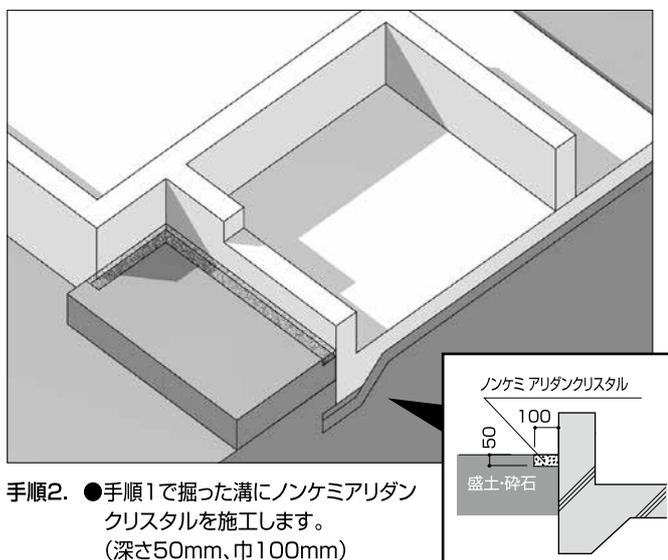
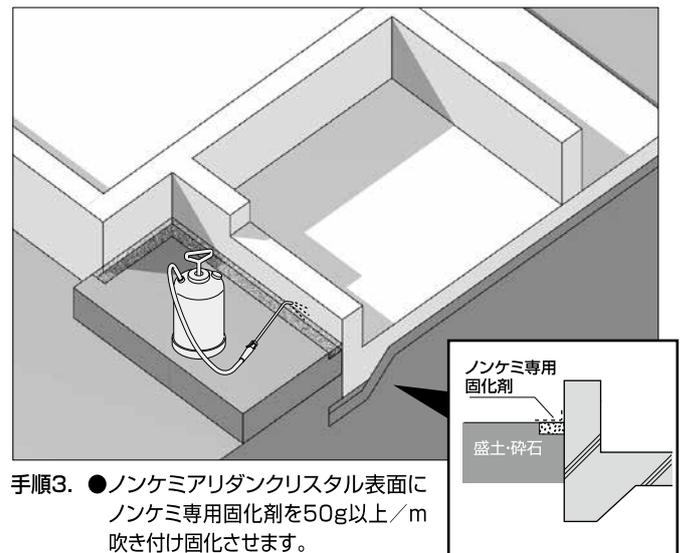
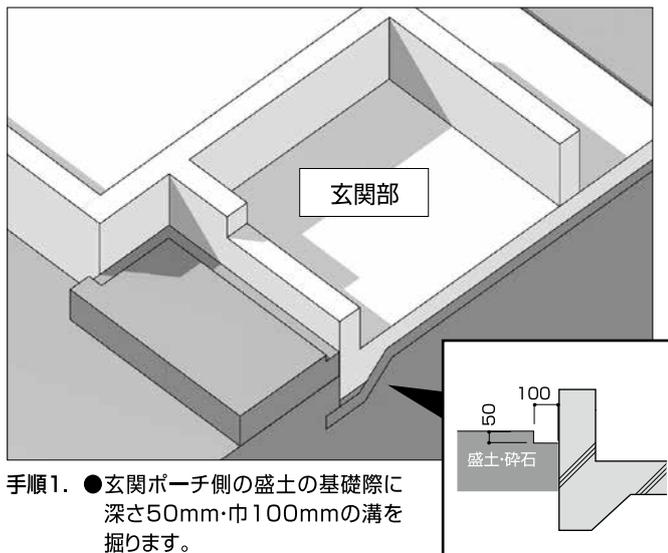
②水抜き孔にモルタル詰め、もしくは、バックアップ材(発泡材や布切れ)を詰めます。あらかじめ、ノンケミ専用固化剤とノンケミアリダンクリスタルを混合し、水抜き孔部に盛り(水抜き外周から高さ30mm以上)突き固めます。



A. 基礎底盤・立上りを「一体でコンクリート打設」する場合

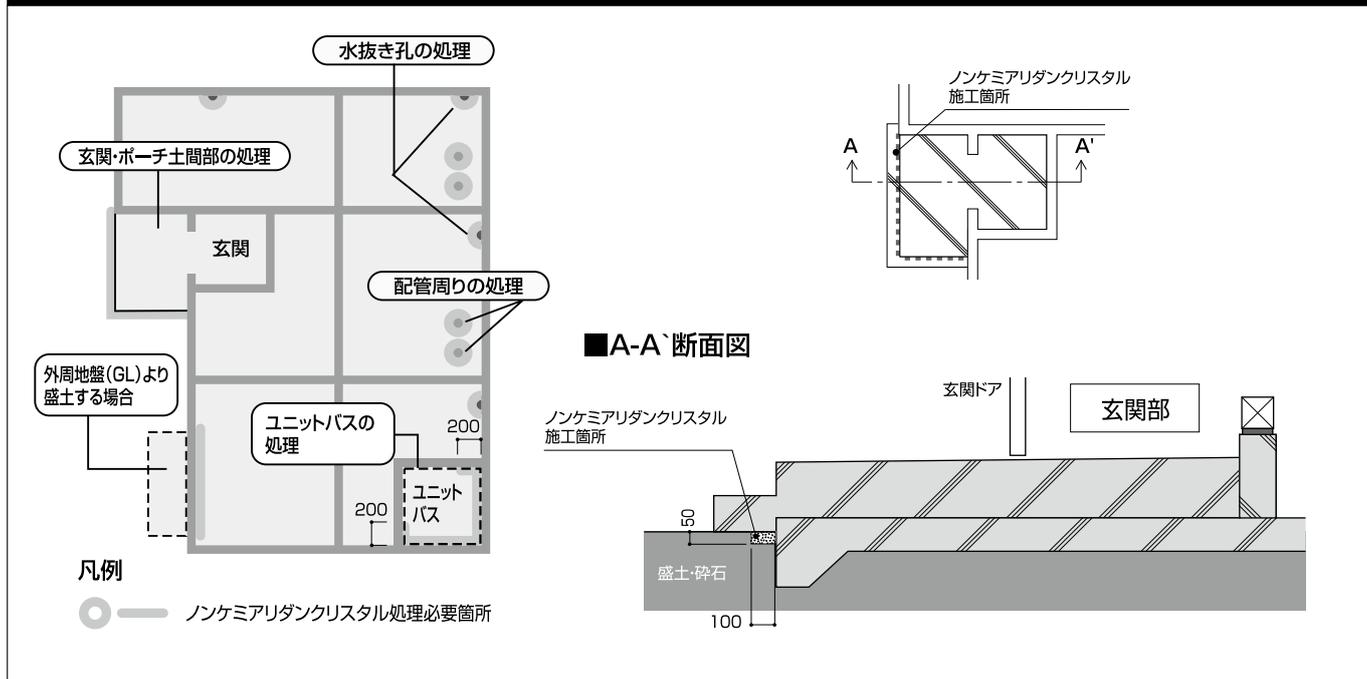


●基本施工要領 3～7ページをご確認ください。

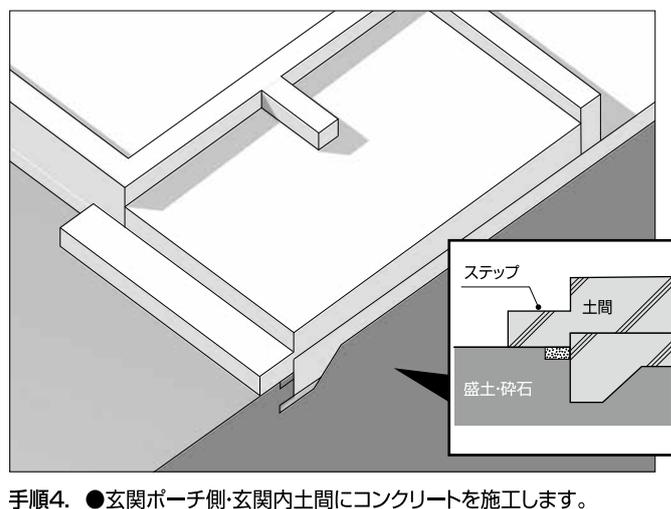
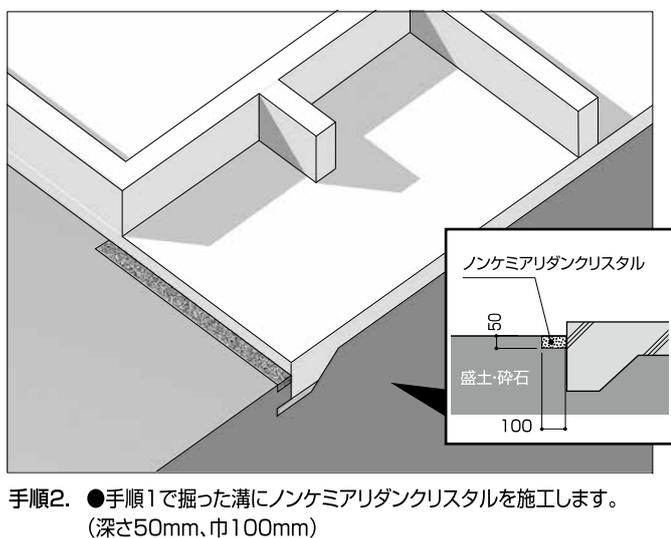
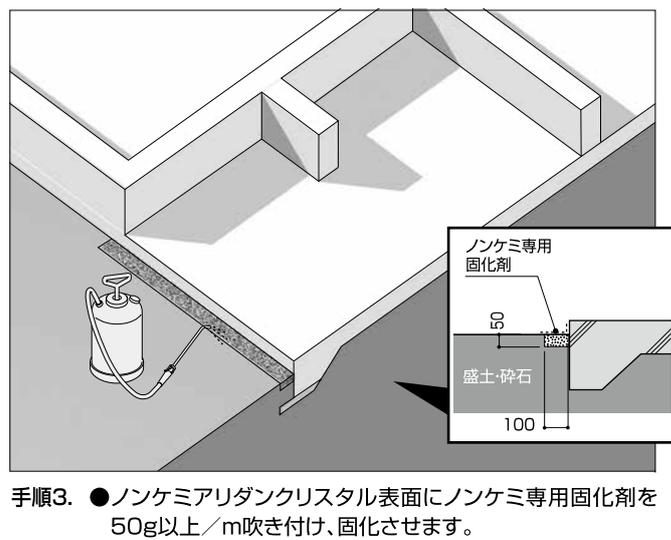
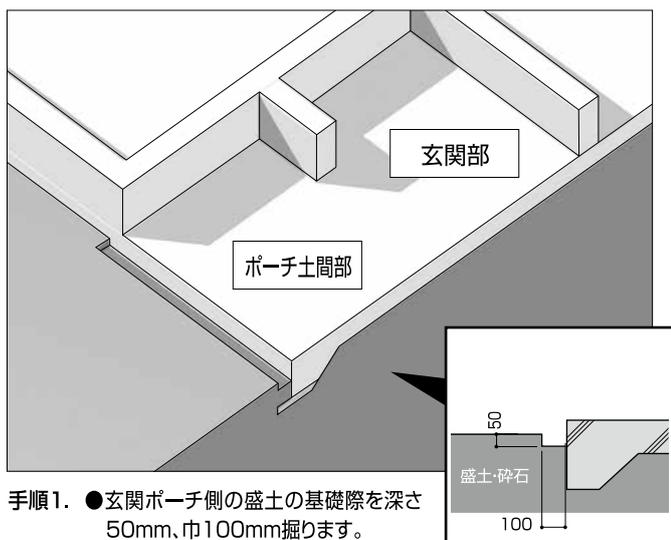


B. 基礎底盤・立上りを「分離してコンクリート打設」する場合-①

B-1. 玄関内土間に盛土・砕石を入れずにコンクリート打設する場合

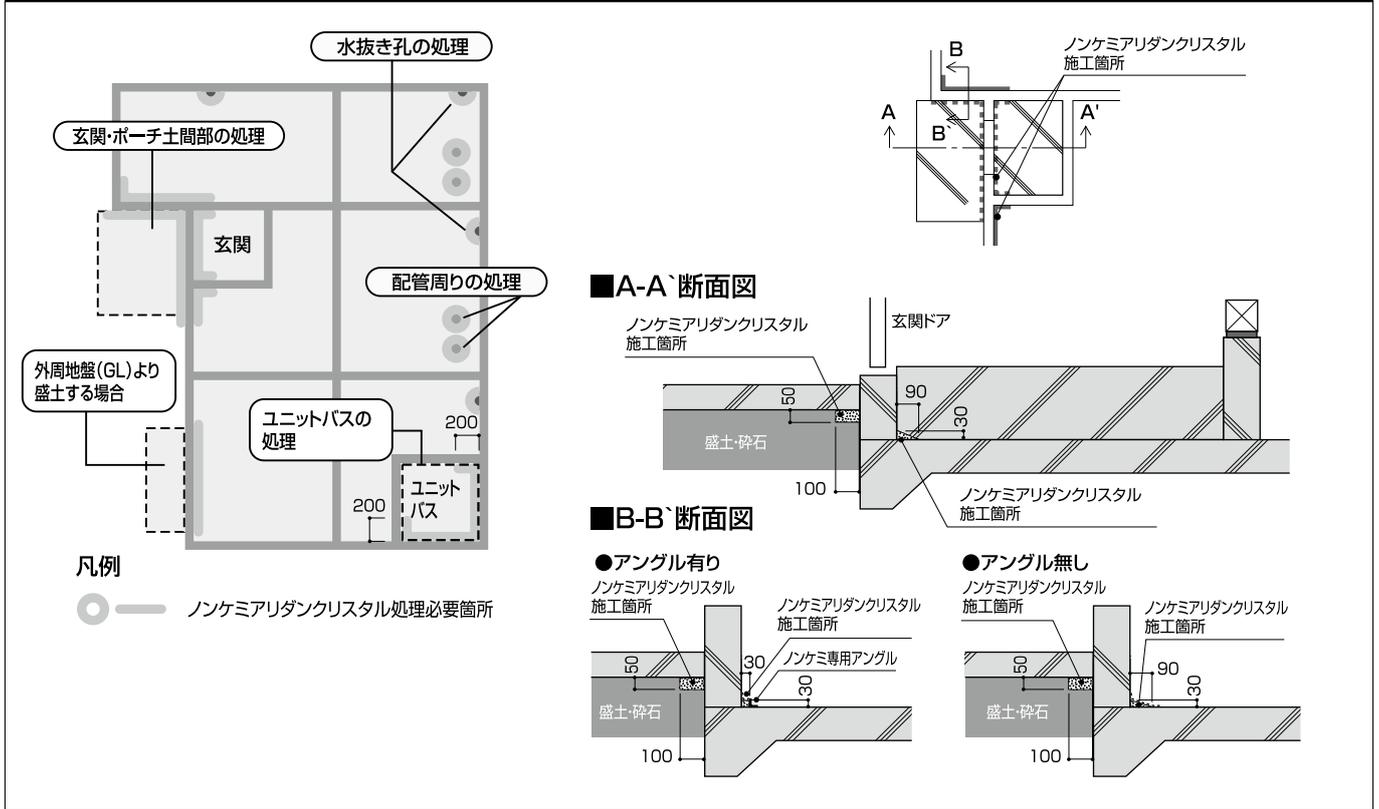


●基本施工要領 3～7ページをご確認ください。

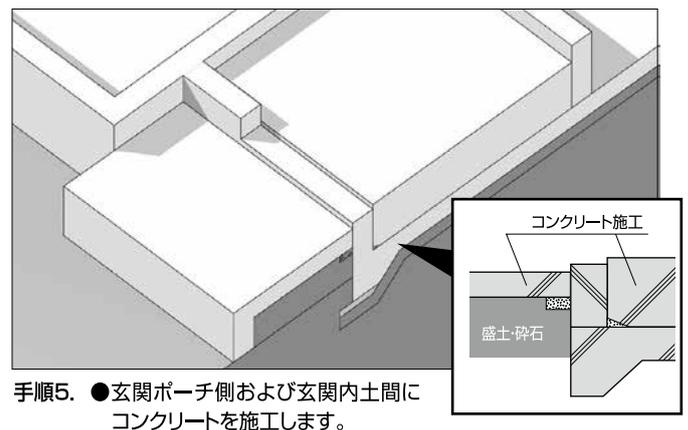
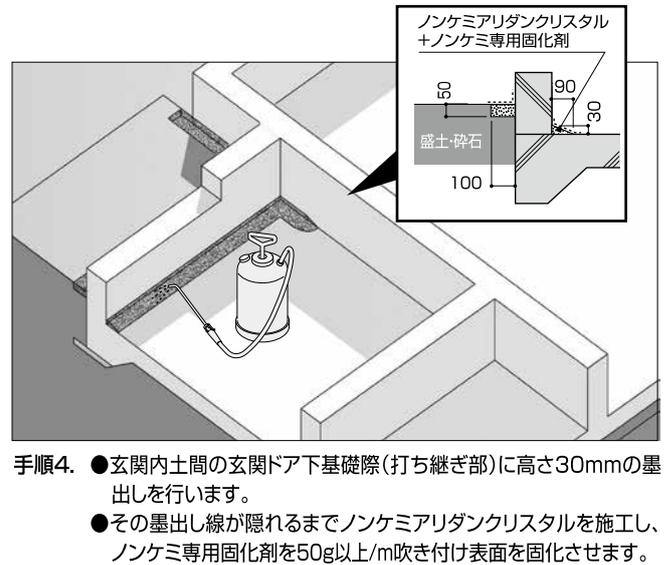
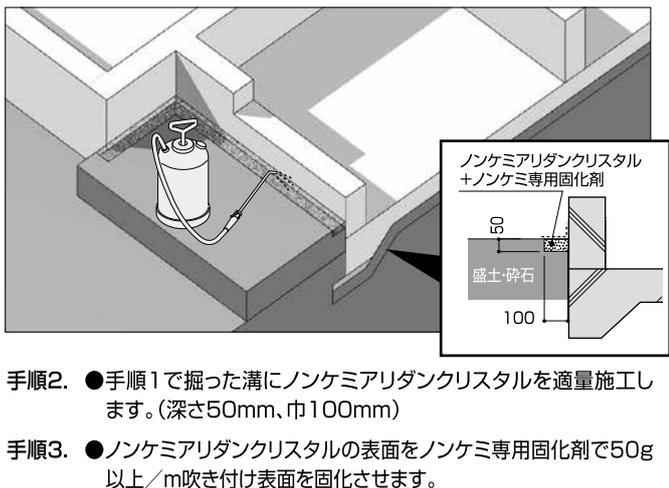
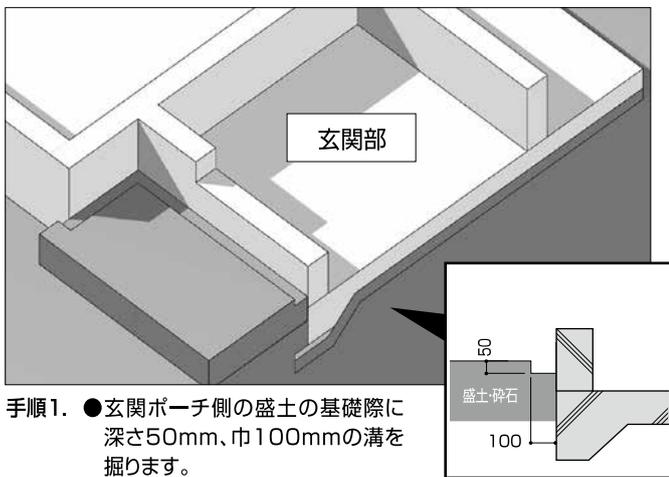


B. 基礎底盤・立上りを「分離してコンクリート打設」する場合-②

B-2. 玄関内土間に盛土・砕石を入れずにコンクリート打設する場合



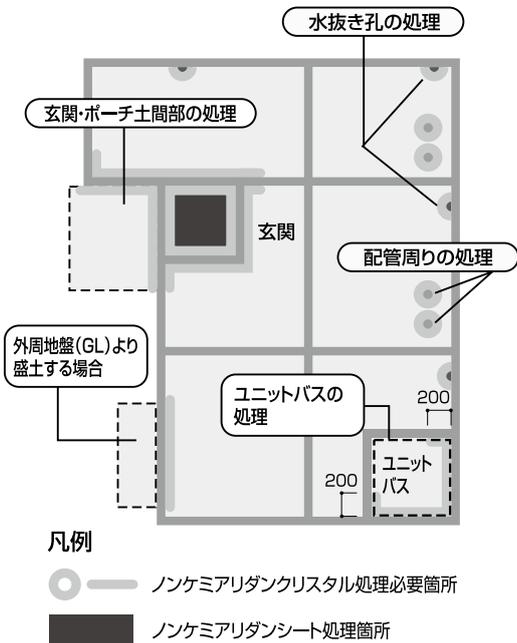
●基本施工要領 3～7ページをご確認ください。



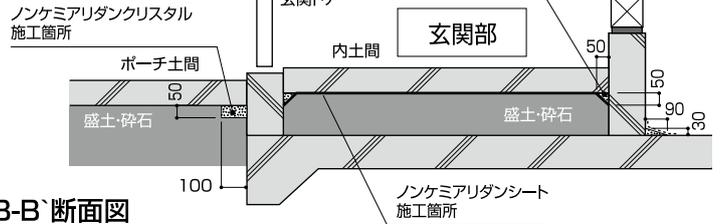
B. 基礎底盤・立上りを「分離してコンクリート打設」する場合-③

B-3. 玄関内土間に盛土・砕石を入れてコンクリート打設する場合

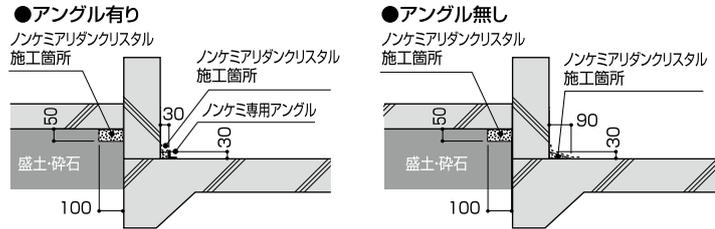
■B-3-1. ノンケミアリダンシートを併用してコンクリート打設する場合



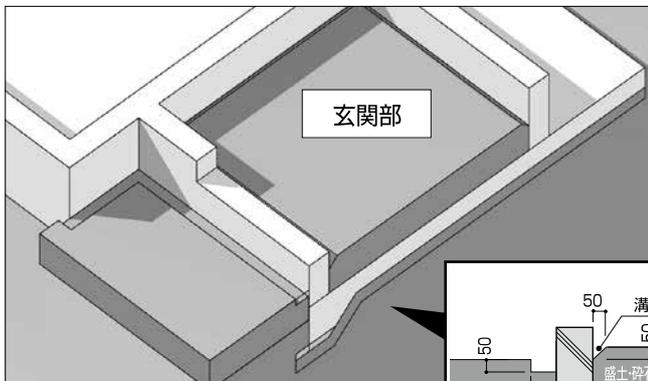
■A-A'断面図



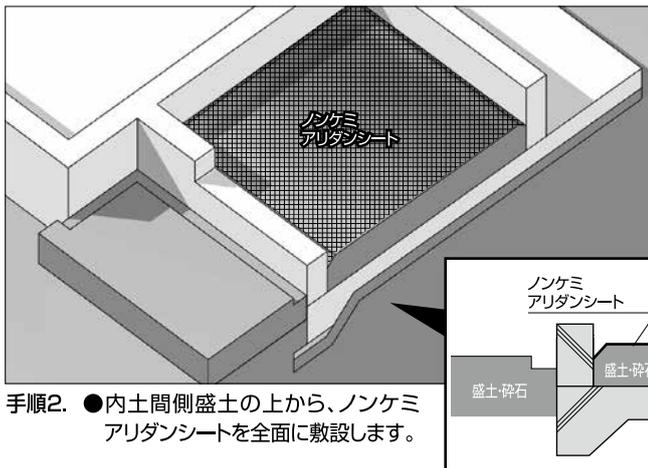
■B-B'断面図



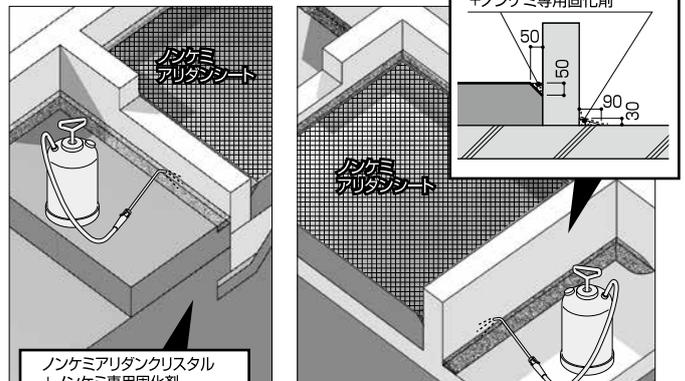
●基本施工要領 3～7ページをご確認ください。



手順1. ●玄関ポーチ側盛土、および内土間側盛土の基礎際を指定サイズ(右図)の中、深さに掘ります。

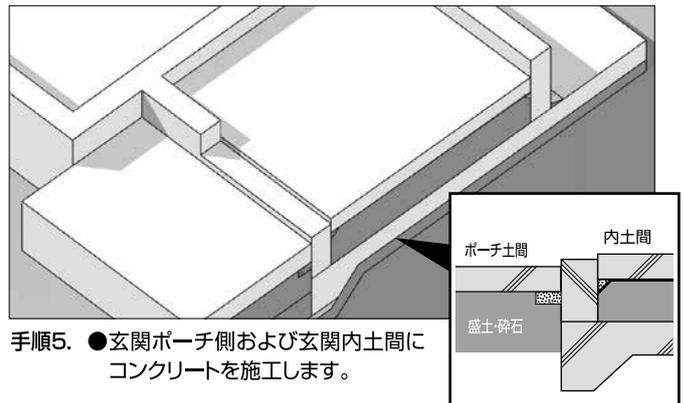


手順2. ●内土間側盛土の上から、ノンケミアリダンシートを全面に敷設します。



手順3. ●玄関ポーチ側、内土間側基礎際の溝にノンケミアリダンクリスタルを施工します。

手順4. ●ノンケミアリダンクリスタル表面にノンケミ専用硬化剤を50g以上/m吹き付け硬化させます。

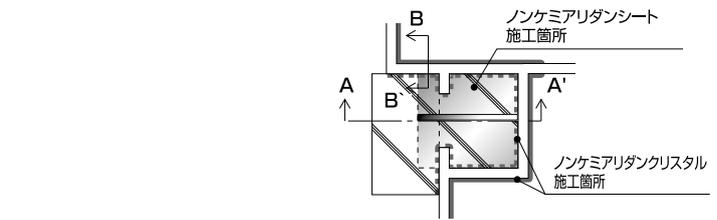
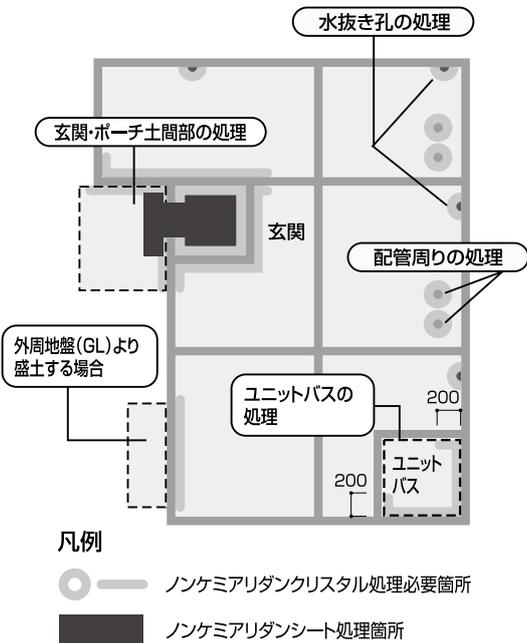


手順5. ●玄関ポーチ側および玄関内土間にコンクリートを施工します。

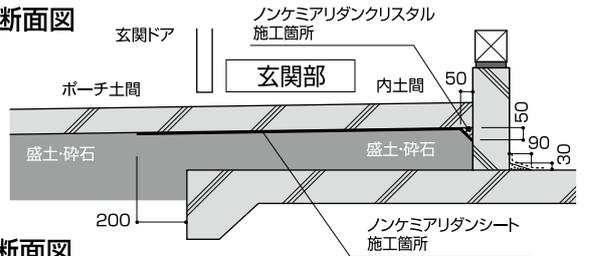
B. 基礎底盤・立上りを「分離してコンクリート打設」する場合-④

B-3. 玄関内土間に盛土・碎石を入れてコンクリート打設する場合

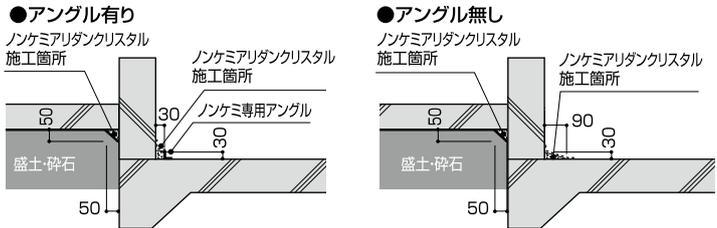
■B-3-2. ノンケミアリダンシートを併用して、玄関ポーチまで一体でコンクリート打設する場合



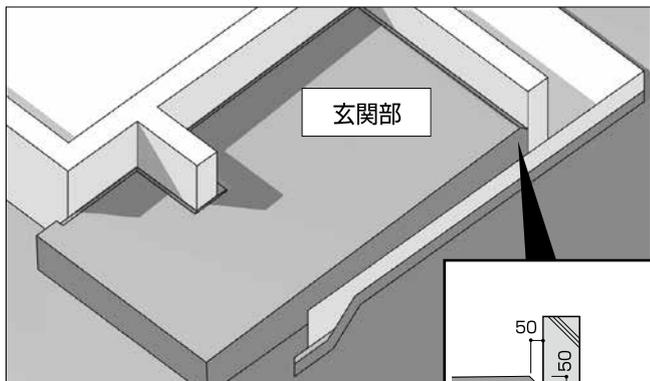
■A-A'断面図



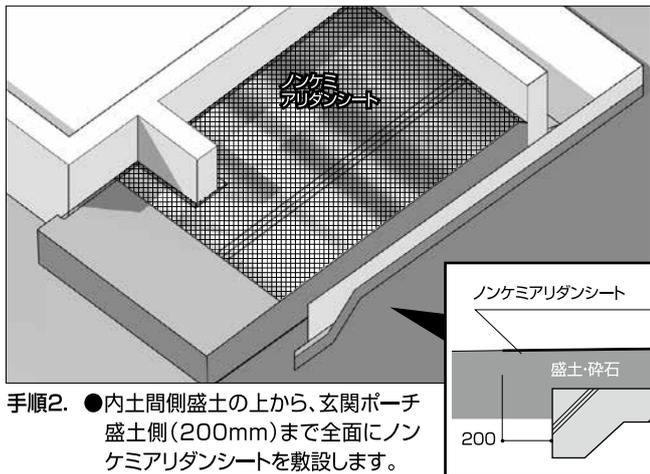
■B-B'断面図



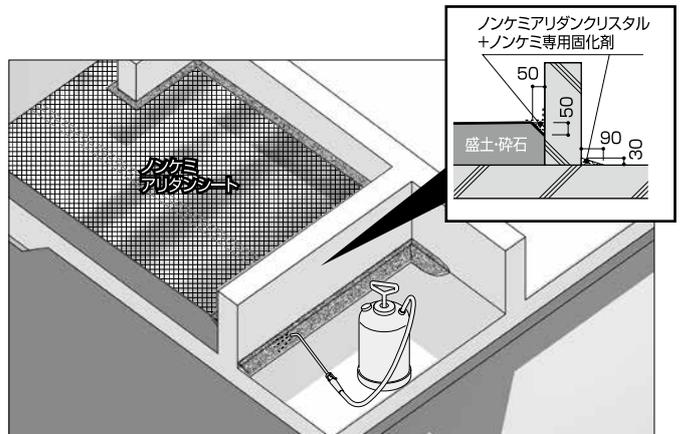
●基本施工要領 3～7ページをご確認ください。



手順1. ●玄関ポーチ側盛土、および内土間側盛土の基礎際を深さ50mm、巾50mmの三角溝を掘ります。

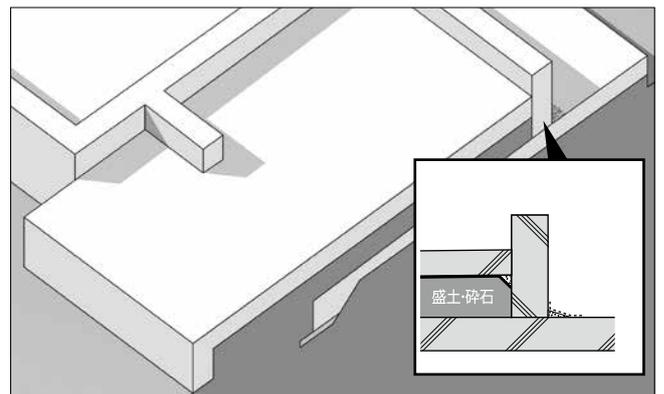


手順2. ●内土間側盛土の上から、玄関ポーチ盛土側(200mm)まで全面にノンケミアリダンシートを敷設します。



手順3. ●玄関ポーチ側、内土間側基礎際の溝にノンケミアリダンクリスタルを施工します。

手順4. ●ノンケミアリダンクリスタルの表面をノンケミ専用固化剤で50g以上/m吹き付け表面を固化させます。



手順5. ●玄関ポーチ側および玄関内土間にコンクリートを施工します。

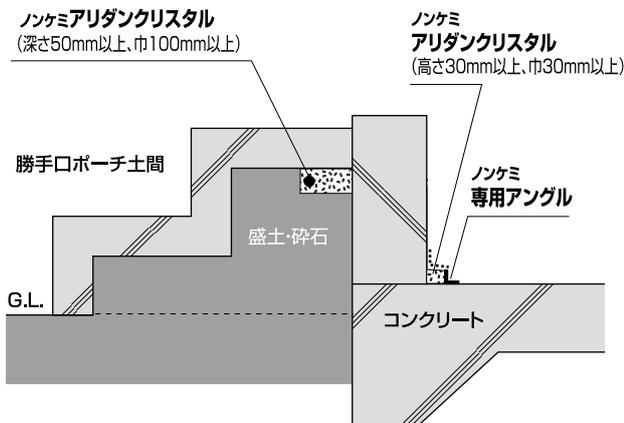
■その他の施工要領

①勝手口がある場合

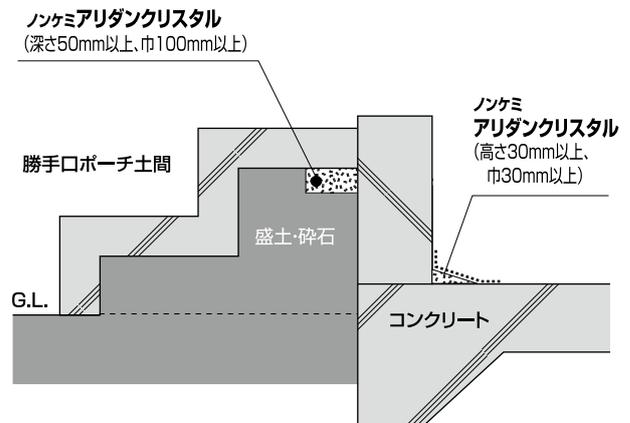
- 勝手口ポーチ土間を設ける場合は、ポーチ土間コンクリートを打設する前に基礎際(外周)にノンケミアリダンクリスタルの施工を行います。深さ50mm以上、巾100mm以上の溝を形成し、溝内にノンケミアリダンクリスタルを施工します。
- また、さらに基礎底盤と立ち上がりが分離打設の場合は、基礎内側基礎際にノンケミアリダンクリスタルの施工を行います。高さ30mm以上、巾30mm以上を確保してください。
- ノンケミアリダンクリスタルの崩れ防止のために、ノンケミ専用固化剤を表面に吹き付けます。吹き付け量は50g以上/㎡とし、基礎立ち上がりから基礎底盤(コンクリート水平面)まで全面に吹き付けます。

1 勝手口ポーチ土間(盛土・碎石あり)の場合

■ノンケミ専用アングルを使用する場合

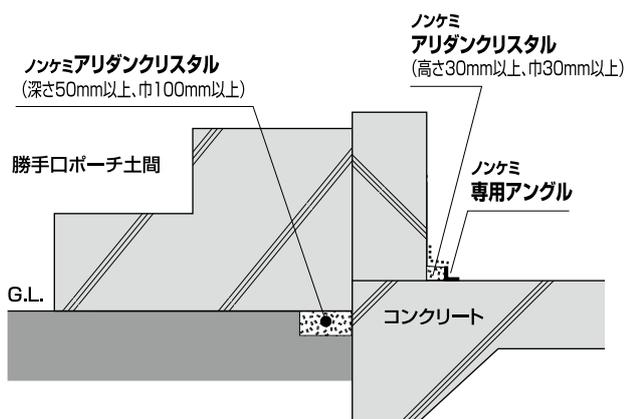


■ノンケミ専用アングルを使用しない場合

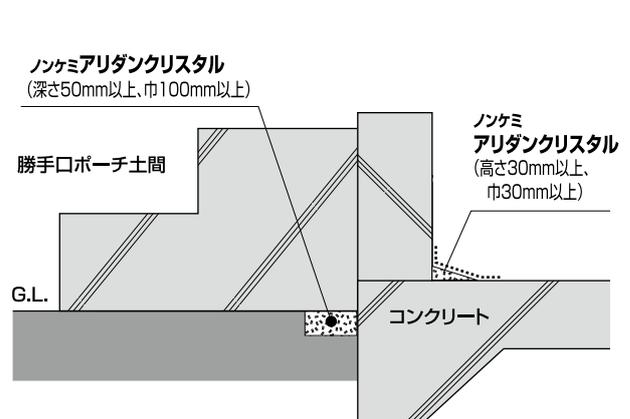


2 勝手口ポーチ土間(盛土・碎石なし)の場合

■ノンケミ専用アングルを使用する場合



■ノンケミ専用アングルを使用しない場合



勝手口に内土間を設ける場合は、玄関部の施工方法と同様になります。
標準仕様書P.1の「玄関部打設方法別フローチャート」に従い、納まり・施工方法を確認してください。

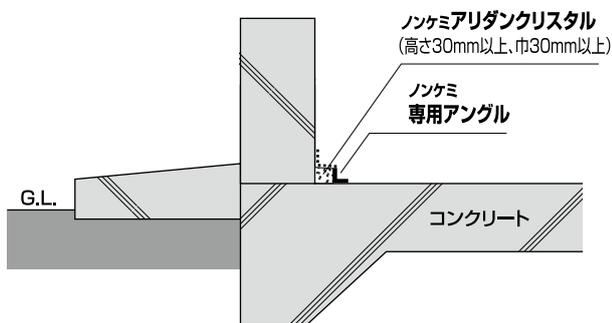
■その他の施工要領

②犬走りがある場合

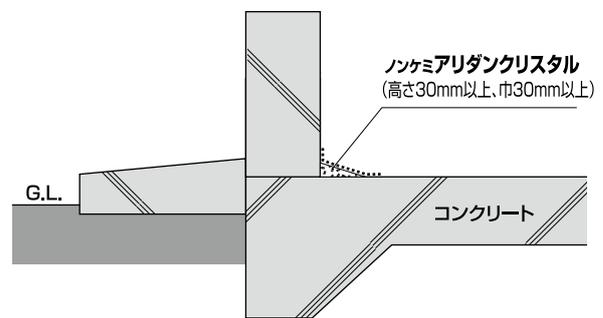
- 基礎底盤と立ち上がりが分離打設の場合で、基礎外周に犬走りを設ける場合は、(基礎外周に盛土をする場合同様)基礎内側基礎際にノンケミアリダンクリスタルの施工を行います。
- 高さ30mm以上、巾30mm以上を確保してください。
- ノンケミアリダンクリスタルの崩れ防止のために、ノンケミ専用固化剤を表面に吹き付けます。吹き付け量は50g以上/mとし、基礎立ち上がりから基礎底盤(コンクリート水平面)まで全面に吹き付けます。

1 基礎外周の犬走りの場合

■ノンケミ専用アングルを使用する場合

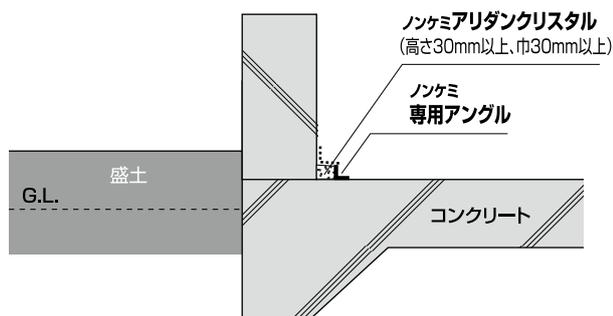


■ノンケミ専用アングルを使用しない場合

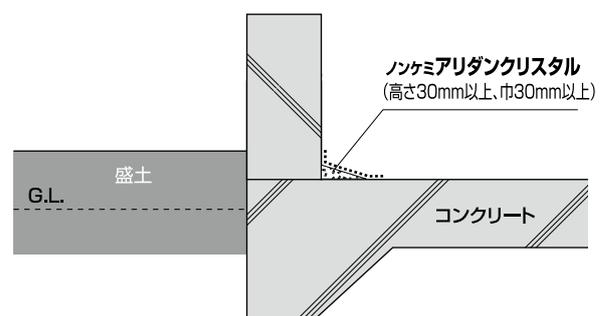


2 基礎外周の盛土の場合

■ノンケミ専用アングルを使用する場合



■ノンケミ専用アングルを使用しない場合



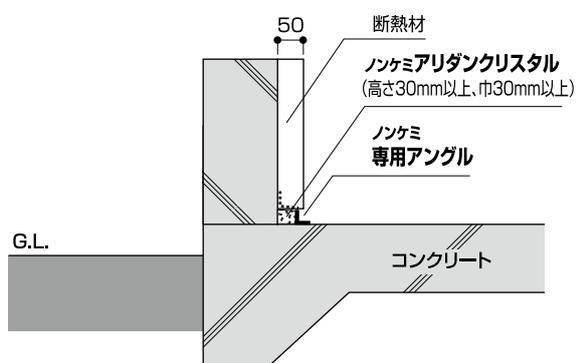
■その他の施工要領

③基礎内側断熱を行う場合

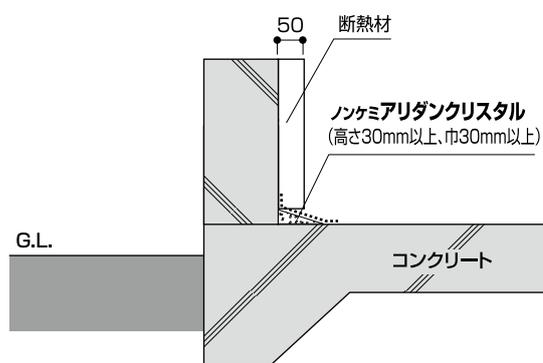
- 基礎際にノンケミアリダンクリスタルを施工します。高さ30mm以上、巾30mm以上を確保してください。
- ノンケミアリダンクリスタルの崩れ防止のために、ノンケミ専用固化剤を表面に吹き付けます。吹き付け量は50g以上/㎡とし、基礎立ち上がりから基礎底盤(コンクリート水平面)まで全面に吹き付けます。
- ノンケミアリダンクリスタル上部の基礎立ち上がりに断熱材を貼り付け(接着)します。

4～7地域の場合 (平成25年省エネ基準 断熱性能の地域区分)

■ノンケミ専用アングルを使用する場合



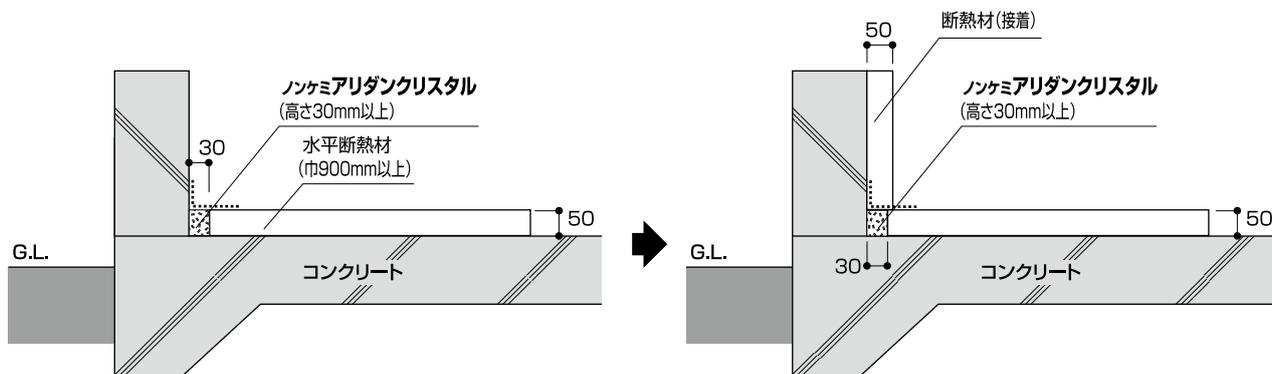
■ノンケミ専用アングルを使用しない場合



※基礎内側断熱で、水平断熱補強を行う場合

- 水平断熱材を施工する場合は、900mm巾以上のサイズにカットした断熱材を基礎際から30mmのところ貼り付け(接着)をし、基礎と水平断熱材との間にノンケミアリダンクリスタルを施工します。その後、基礎立ち上がりに断熱材を貼り付け(接着)します。

4～7地域の場合 (平成25年省エネ基準 断熱性能の地域区分)



10年目メンテナンス施工(有償)

10年目のメンテナンス施工としては、以下の作業を行います。

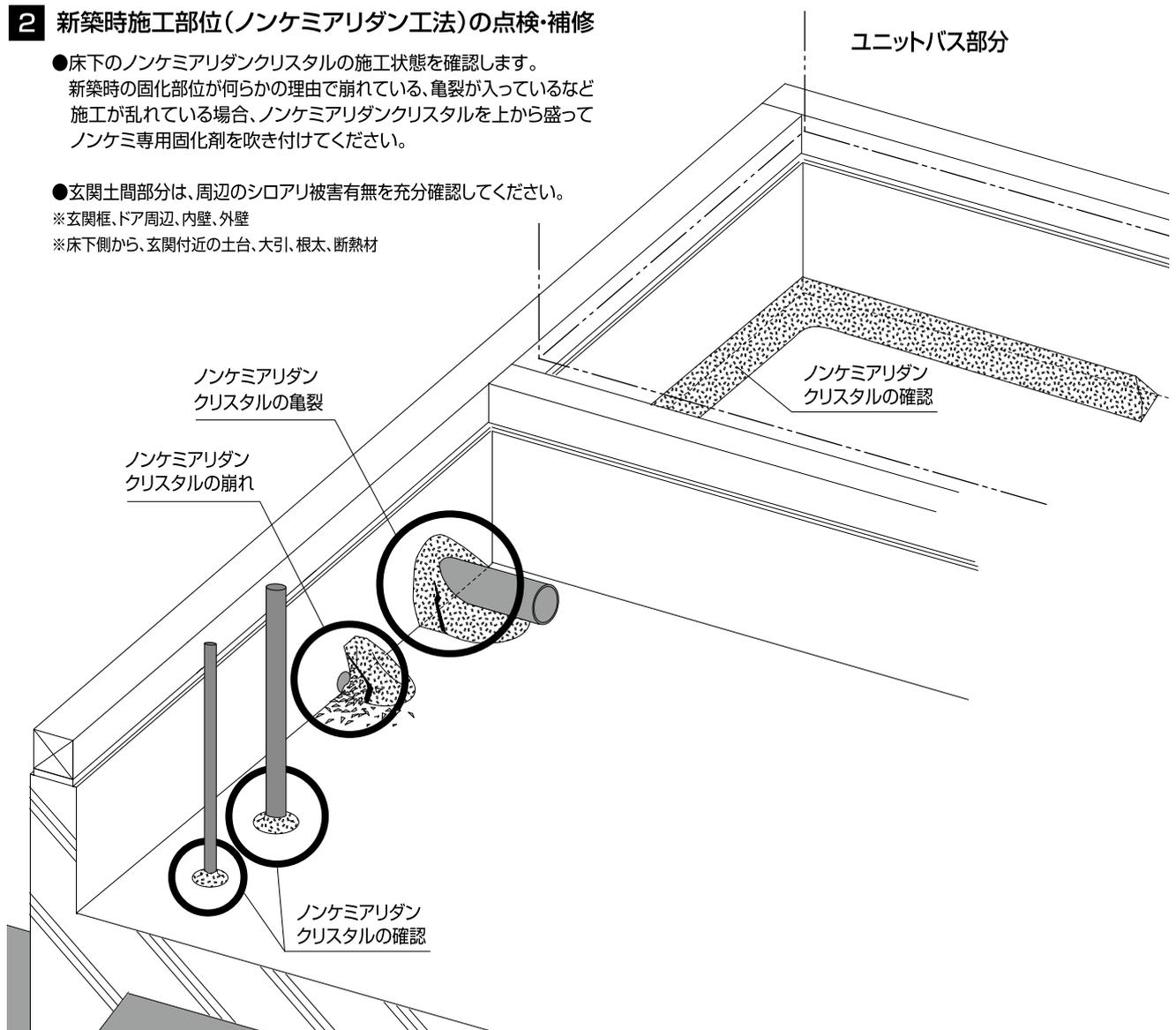
- 1 シロアリ被害有無の確認(建物内部、外周、床下など)
- 2 新築時施工部位(ノンケミアリダン工法)の点検・補修
- 3 外周基礎の床下基礎際への施工(新築時に施工していない部分)

1 シロアリ被害有無の確認(建物内部、外周、床下など)

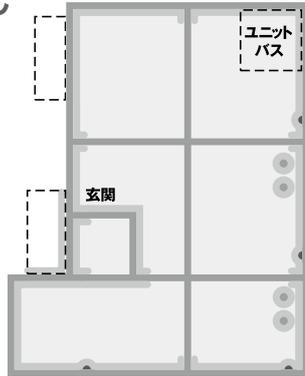
- 建物にシロアリの侵入(蟻道の形成)および、被害がないか充分確認します。
※シロアリ被害のある場合は駆除を行い、駆除・建築修復完了後の作業となります。
※フクビ化学までご連絡ください。
- 建物全体を点検・確認します。(点検可能な範囲すべて)
※建物躯体、内装、外装、床下、天井、建物外周、周辺環境など

2 新築時施工部位(ノンケミアリダン工法)の点検・補修

- 床下のノンケミアリダンクリスタルの施工状態を確認します。
新築時の固化部位が何らかの理由で崩れている、亀裂が入っているなど施工が乱れている場合、ノンケミアリダンクリスタルを上から盛ってノンケミ専用固化剤を吹き付けてください。
- 玄関土間部分は、周辺のシロアリ被害有無を充分確認してください。
※玄関框、ドア周辺、内壁、外壁
※床下側から、玄関付近の土台、大引、根太、断熱材

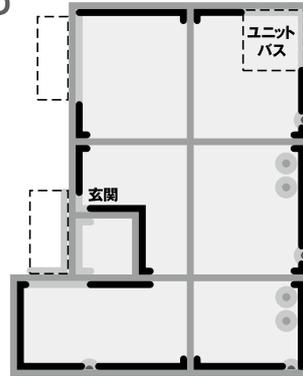


10年目ノンケミアリダンクリスタル
追加施工なし



凡例 ○ 新築時施工部位の点検、補修

10年目ノンケミアリダンクリスタル
追加施工あり

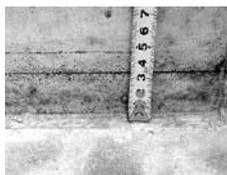
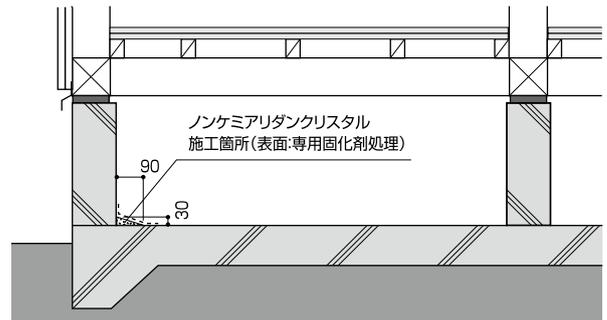


新築時に施工しなかった外周基礎の
床下基礎際に追加施工を行います。
標準仕様書をご確認の上、施工を
行ってください。

凡例 ○ 新築時施工部位の点検、補修
● 10年目ノンケミアリダン工法メンテナンス施工箇所(有償)

3 外周基礎の床下基礎際への施工(新築時一括施工している場合は点検のみ)

- 基礎際のゴミ・ホコリを取り除きます。
- 外周基礎の床下基礎際全周(新築時未施工)にノンケミアリダンクリスタルを施工します。
- 外周基礎が内部基礎と接合する箇所は内部基礎際200mmの部分にノンケミアリダンクリスタルを施工します。
- 高さ30mm以上、巾30mm以上を確保し、ノンケミアリダンクリスタルを基礎際に盛っていきます。ノンケミアリダンクリスタルは粒状でサラサラしているため、高さ30mm堆積しようとする、巾は90mm前後になります。
- ノンケミアリダンクリスタルの崩れ防止のために、ノンケミ専用固化剤を表面に吹き付けます。吹き付け量は50g以上/mとし、基礎立上がりから基礎底盤(コンクリート水平面)まで全面に吹き付けます。
- 基礎際に、型枠用金具(セパレーター)やコンクリートの漏れはみ出たノロ部がある場合、ペンチやたがね・金づちなどできれいに取り除いてから、ノンケミアリダンクリスタルの施工を行ってください。



墨出し(高さ30mm)



ノンケミアリダンクリスタルの施工



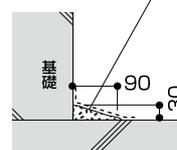
専用固化剤の吹き付け

型枠金具取り外し

型枠の固定金具およびコンクリートノロ部はシロアリ
の侵入口となるため、施工前に取り除いてください。

ノンケミアリダンクリスタル
施工箇所

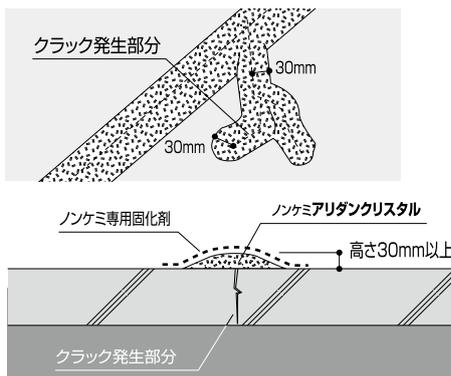
型枠固定金具



取り除くこと

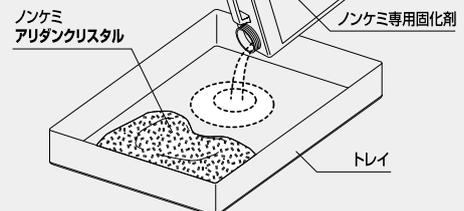
クラックが発生している箇所にも施工します。

- クラックが発生している部分にノンケミアリダンクリスタルを盛り(高さ30mm以上)、全体にノンケミ専用固化剤を吹き付け、固めます。



- 高く盛る施工や孔部への施工の場合は、ノンケミアリダンクリスタルが崩れやすく、多量に必要となるため、あらかじめ専用固化剤を混合したノンケミアリダンクリスタルを作っておきます。
- ※p.7「固化剤混合ノンケミアリダンクリスタルについて」を参照ください。

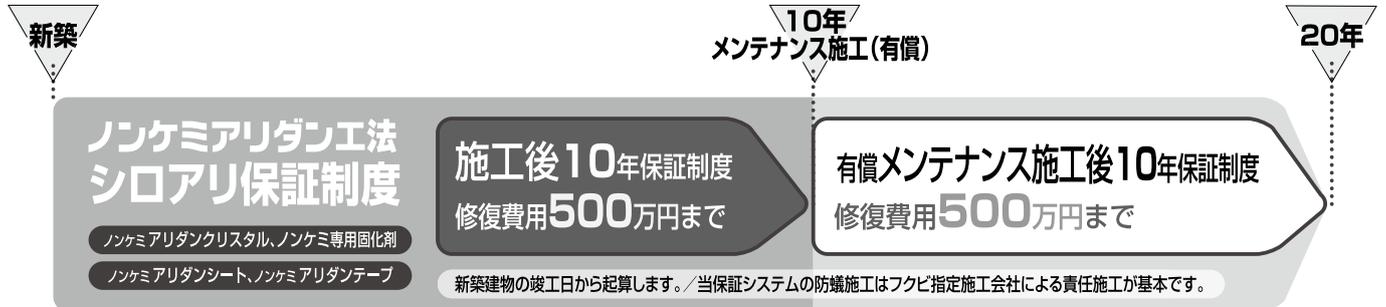
ノンケミアリダンクリスタルと
ノンケミ専用固化剤との混合



FUKUVI トータル防蟻システム

フクビ指定施工会社による責任施工で

10+10年保証 ノンケミアリダン工法
シロアリ保証制度



「ノンケミアリダン工法」施工後、10年間シロアリ被害を保証します。万が一シロアリ食害による被害が出た場合、「500万円までの修復費用」を負担します。さらにメンテナンス施工で「10年延長500万円までの修復費用」を継続。最大20年間保証可能な制度です。

① ノンケミアリダン工法施工

- 基礎打設方法別のノンケミアリダン工法に従って、部材を準備の上、施工します。



ノンケミアリダンシート敷設



ノンケミアリダンクリスタルの施工



専用硬化剤の吹き付け

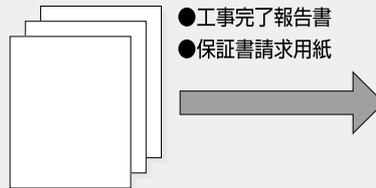


配管周りの処理

② 工事完了報告 / 保証書請求

施工(工事)終了後は、工事完了報告書の作成および保証書請求手続きを行います。

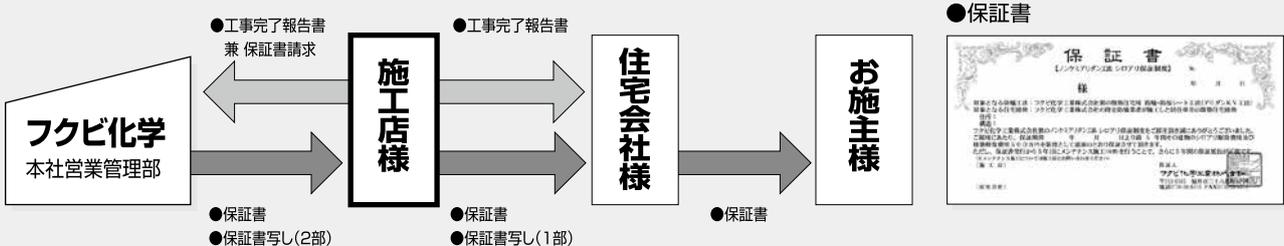
- 専用の工事完了報告書 / 保証書請求用紙に必要事項を記入し、指定箇所の写真を添付し、フクビ化学本社営業管理部宛にメールもしくは郵送します。



③ 保証書発行

フクビ化学が工事完了報告書 / 保証書請求用紙の記入内容および写真添付内容を確認し、保証書を発行します。

- 保証書は、原本(お施主様) / 複写(住宅会社様控え・施工店様控え・フクビ控え)となっています。



本社 / 福井市三十八社町 33 の 66 ☎ (0776) 38-8013 〒918-8585
東京 ☎ (03)5742-6301 大阪 ☎ (06)6386-6950 名古屋 ☎ (052)855-2332

北海道 ☎ (011)896-7500 盛岡 ☎ (019)654-7511 仙台 ☎ (022)287-3471
東関東 ☎ (029)841-7611 宇都宮 ☎ (028)636-3521 北関東 ☎ (048)661-0400
千葉 ☎ (043)247-3651 西東京 ☎ (042)529-3911 神奈川 ☎ (045)470-1050
新潟 ☎ (025)241-7832 湯 ☎ (075)662-2315 北陸 ☎ (0776)38-8010 静岡 ☎ (054)288-3600
京都 ☎ (075)662-2315 岡山 ☎ (086)232-0601 広島 ☎ (082)246-7211
高松 ☎ (087)822-2301 福岡 ☎ (092)471-5800 鹿児島 ☎ (099)259-0220
沖縄 ☎ 090-1943-2112